



苔の石段を登り、少し歩くと、今度は朱塗りの「中の鳥居」に到達する。さらに進むと、奥の院に向かう参道と御手洗池への道に分かれる。

御手洗池から展望台へ

御手洗池の方に進んでいくと、地元の人が飲み水を汲んでいた。話を聞いてみると、「この水は軟らかくてお茶にするとおいしい。」と言っていた。この水は、昭和60年に全国名水百選として選ばれており、聖武天皇の皇太子が眼病治療に使った水とも言われている。毎日絶えることなく湧き出て、このあたりの灌漑用水となっている。

御手洗池を後にし、朱塗りのお池橋を渡って、展望台に向かう。木の葉が舞い落ちる赤蔵林道を上へと進んでいくと、展望台からは、田鶴浜の街並みと七尾西湾そして能登島を



展望台からの眺め

眺めることができる。

歌人で「赤い靴」などで有名な野口雨情は、昭和9年にこの地を訪れ、その様子を「田鶴浜小唄」の

「朝にゆふへに赤倉山は

下に能登湾ひとながめ」

という句に残している。その昔、雨情が眺めた景色を時代を越えて共有できることは感慨深いものがある。

こうして、神仏習合、そして神仏分離の歴史を物語る赤蔵山は、悠久の昔から変わることなく、この地に座っている。四季折々の自然に恵まれた赤蔵山は、さまざまな動植物を育み、また私たちの生活を潤してくれている。これからもゆっくりとした時間を刻みながら、私たちを見守ってくれることだろう。

三匹の猿

境内にある大きな銀杏の木の前には猿の石像が置かれている。三匹の猿（三猿）はそれぞれに両眼・両耳・口を手で覆った姿をしており、「見ざる（猿）・聞かざる（猿）・言わざる（猿）」の意を表している。

人の欠点や都合の悪いことは見ても見ないふりをし、聞いても聞かないふりをし、余計なことを言わないようにするということわざからきている。



周辺マップ



今月の 主な内容

CONTENTS

- 七尾市の子育て.....4
- 平成16年度決算.....8
- 人権週間.....20